

## 健康心理学研修会

注：研修会へのご参加には、大会参加とは別にお申し込みが必要です。お席に空きがございましたら当日参加も受け付けます。お申込にあたっては、大会ホームページ内「研修会のお知らせ」（<http://jahp.wdc-jp.com/conf/31st/others.html>）をご参照ください。

また健康心理学研修会については、日本健康心理学会ホームページ内の「研修会」（<http://jahp.wdc-jp.com/kensyu/kensyu1.html>）もご参照ください。

## 第112回 健康心理学研修会

第2日 6月24日（日）9:30~11:00

優心館 E304

## 公認心理師の専門教育（1）

## —医療心理学系科目と医学系科目との有機的な連携の必要性について—

〔企画〕日本健康心理学会研修委員会・健康心理士会

〔講師〕岩原昭彦（京都女子大学発達教育学部 教授）

## 【講師略歴】

1994年 関西学院大学文学部心理学科卒業

2002年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士課程後期課程社会情報学専攻満期退学

2002年 樟蔭東女子短期大学・専任講師

2008年 和歌山県立医科大学保健看護学部・准教授

2017年 京都女子大学発達教育学部・教授

専門は神経心理学，老年心理学。著書に，「よくわかる高齢者の心理学（共著）」（ミネルヴァ書房），「神経心理学（編著）」（サイエンス社）ほか

【概要】公認心理師には，保健・医療，福祉，教育，司法・犯罪，産業・労働の各分野において，心理に関する支援を要する者やその関係者に対して専門的知識及び技術をもって，心理学的な援助を行うことが求められる。くわえて，心の健康に関する知識の普及を図るための教育および情報の提供が求められる。このことは，従来の臨床心理士の活動範囲を超えた分野での活動を公認心理師に期待していることの現れだと考えられる。特に，保健・医療分野においては，精神科領域だけを活動の範囲とすることなく，さまざまな診療科において公認心理師が活躍できる医療制度が将来的に設計される必要がある。公認心理師が医療分野で活躍すべき領域としては，認知症や高次脳機能障害を扱う神経内科領域，発達障害や重度心身障害を扱う小児科領域，高血圧症や糖尿病を扱う慢性期医療領域，がんなどを扱う終末期医療領域などの多くの医療分野や，妊産婦を対象とした母子保健や高齢者を対象とした老人保健といった保健分野など，その枚挙にはいとまがない。

しかしながら，多くの医療従事者達が危惧しているのは，公認心理師が保健・医療チームの真の一員となることができるのかということである。公認心理師の養成カリキュラムでは多職種連携や地域連携の重要性を理解することが求められているが，それらを実現するために重要なのは，他の医療従事者達と共通の言語と思考法を持って活動することである。つまり，医学に関する基礎的な知識を持ち，高邁な倫理観を備えたうえで，科学的な態度で心理実践にあたるのが医療従事者からは求められているのである。これらのことは従来の心理学の学部・大学院教育には欠損していた部分であると同時に，公認心理師養成の指定カリキュラムでも十分とは言えない。限られた時間とカリキュラムの中で，いかにこの問題に対処して，プロフェッショナルリズムを備えた公認心理師を養成するのかについて検討してみたい。